

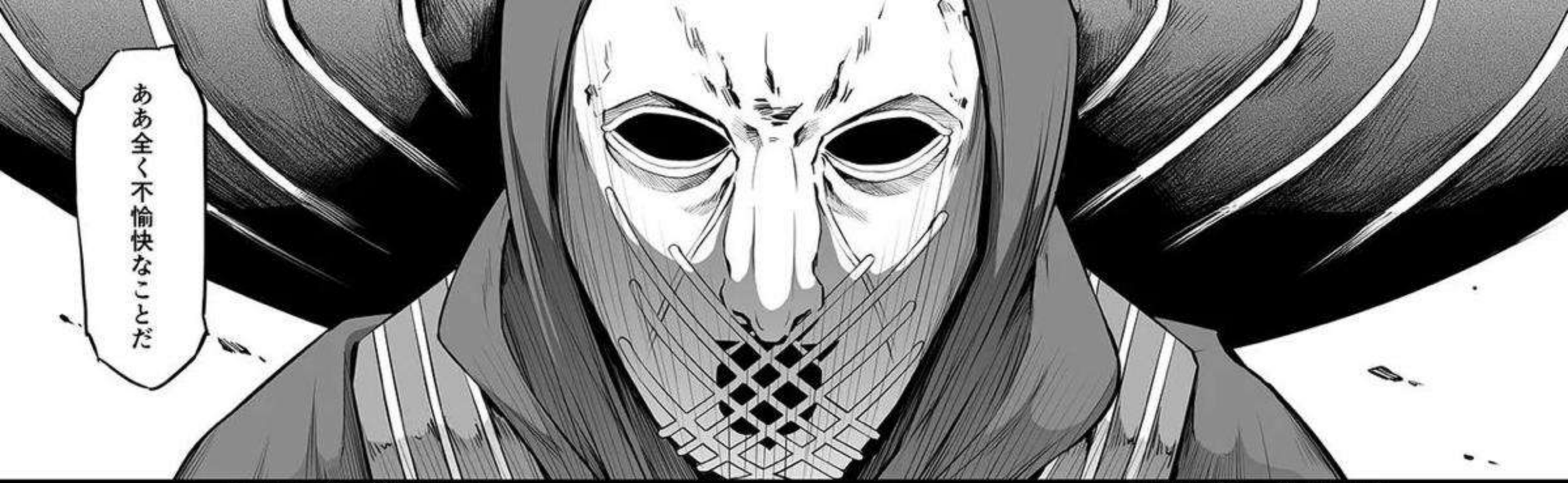


赤獅子の女戦士

傀儡に堕ちた

adult only





ああ全く不愉快なことだ



かの神人の通った後には
何も残らぬ

これほどまでに
神秘に満ちた地で

在るのはただ



とても使い物に
ならない
数多の骸の山だけだ

死体



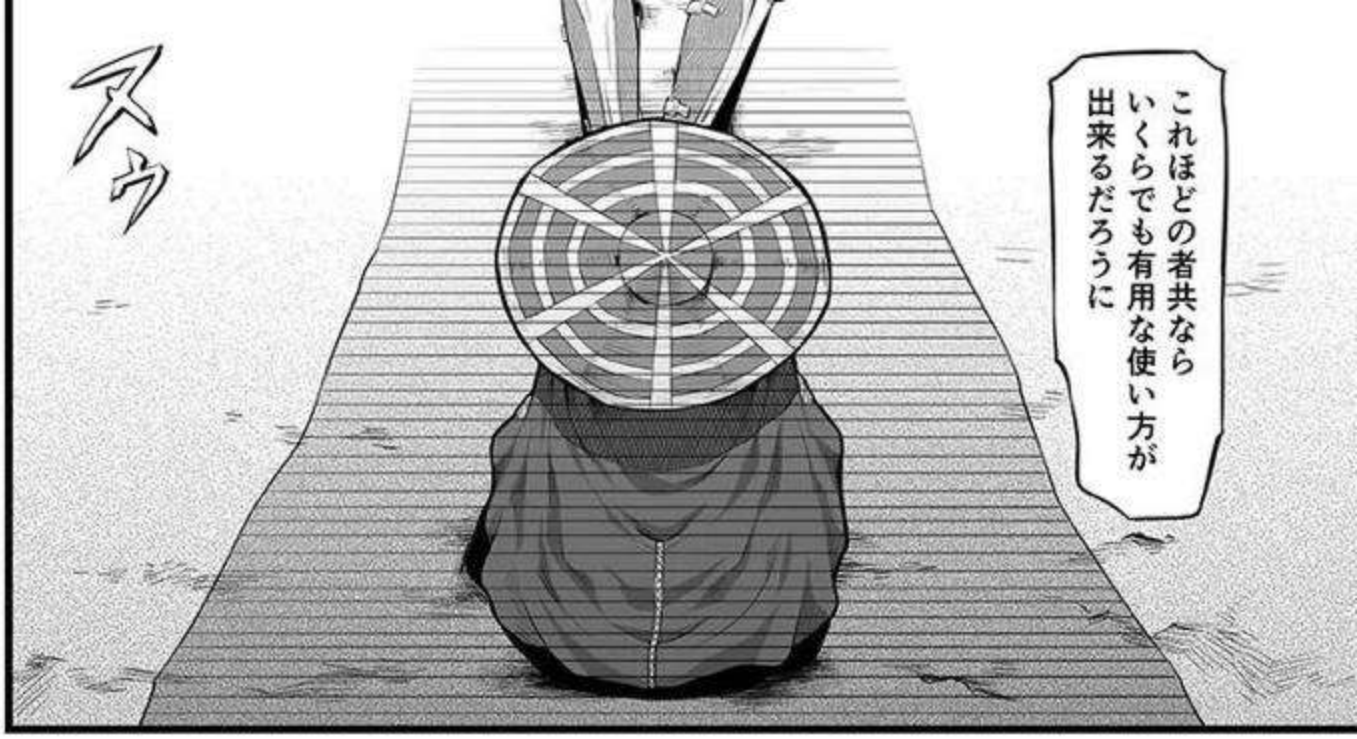
死体



死体



……ほう……これは
……なかなかどうして

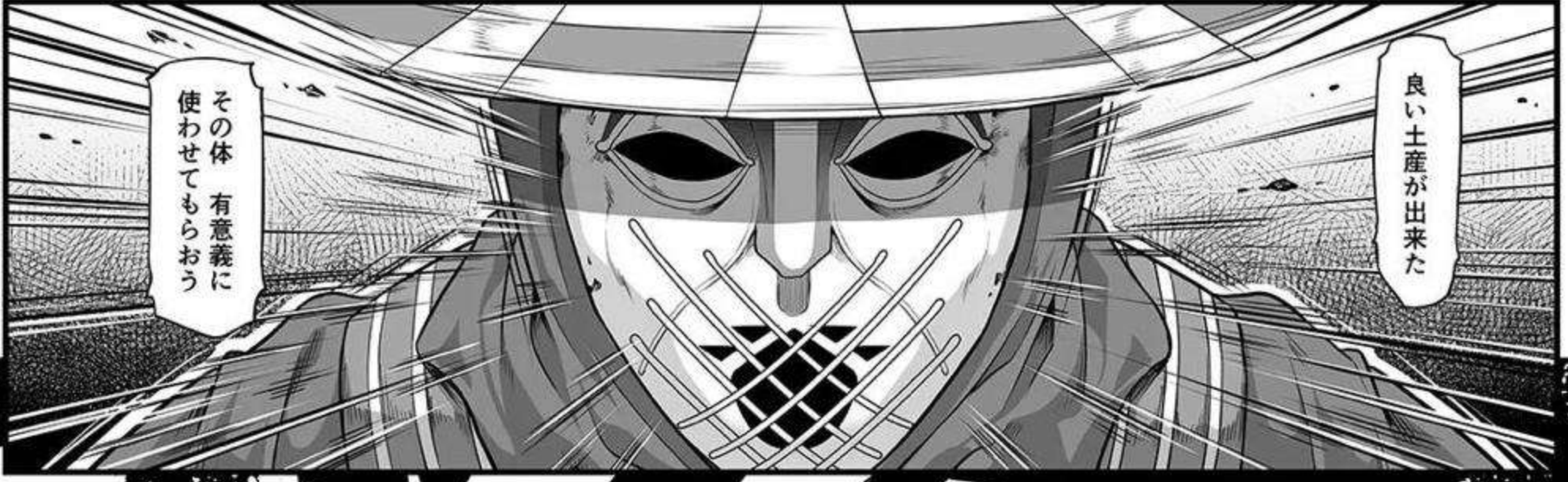


これほどの者共なら
いくらでも有用な使い方が
出来るだろうに



心の臓は止まっていたが……
闘争を求めて息を
吹き返したというのか？

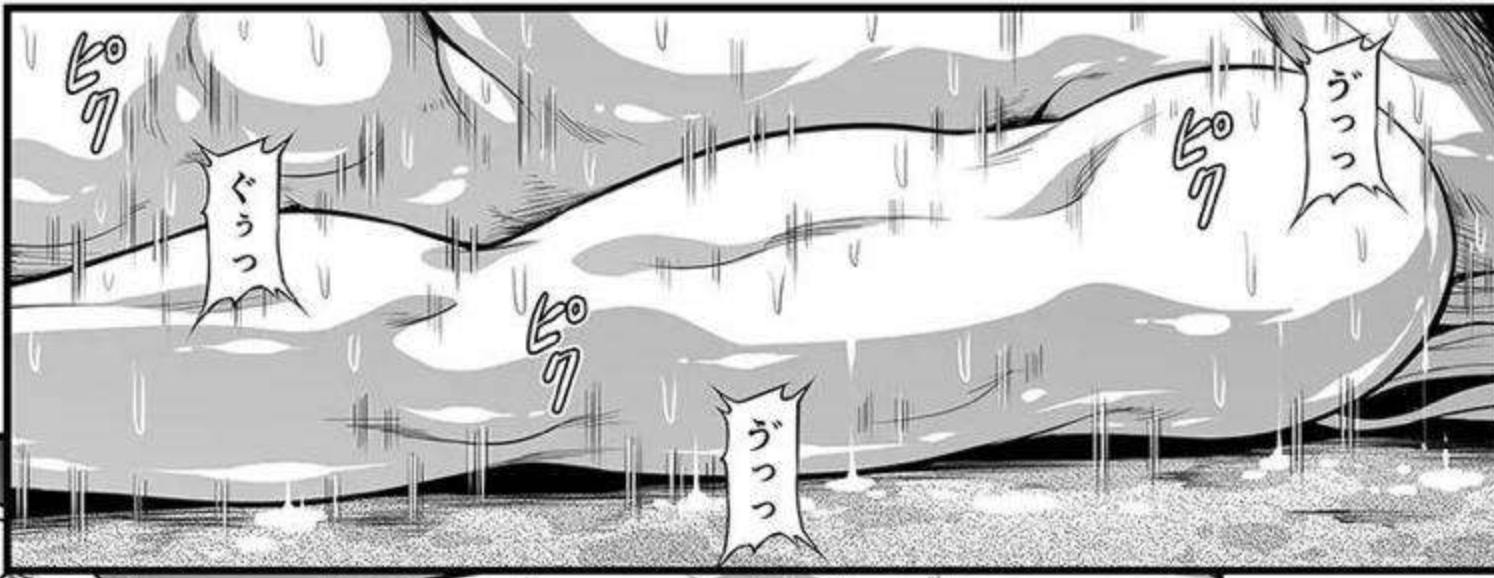
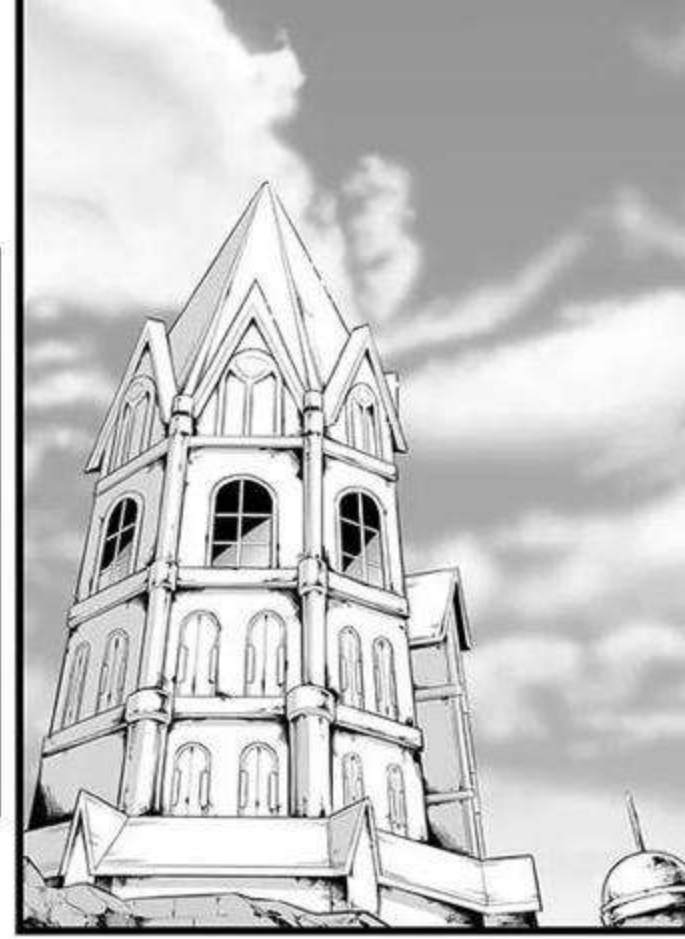
赤獅子の女か
見事な肉体と精神力だ
実に希少な素材よ



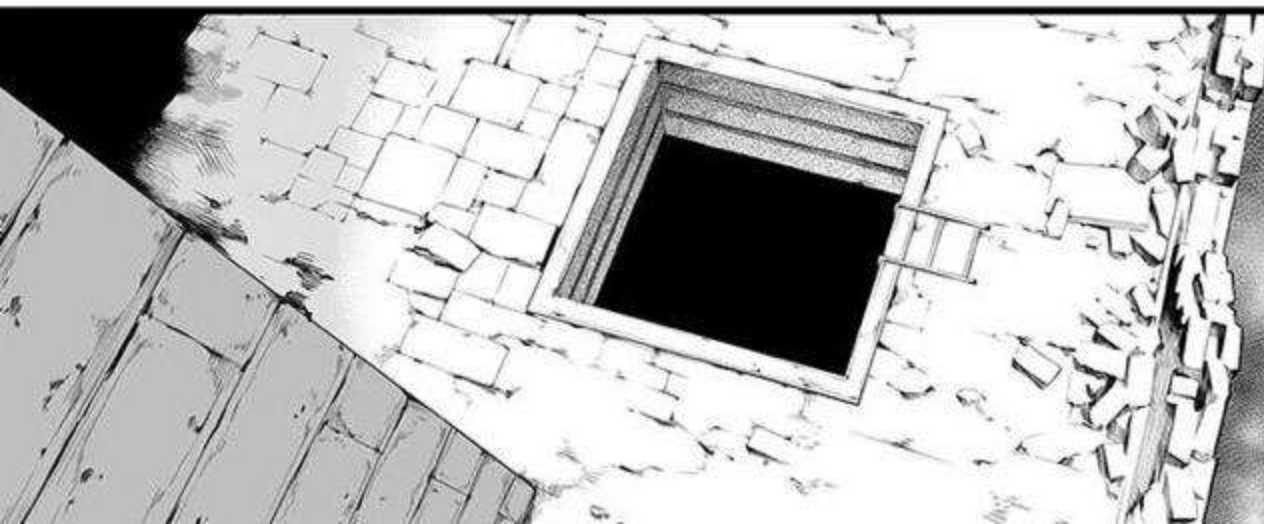
良い土産が出来た

その体 有意義に
使わせてもらおう





醜女かと思ったが
なかなか美しい顔立ち
ではないか なぜ仮面に
こだわるのだろうか？



霊体を生まれたままの姿にする事はどうしてもできないんだ
仮面を外れぬ それほどまでにこの女を形作る何かなのだろう

そして肉体と魂の結びつきが異常に強い 魂が抜けてなお霊体の意志で肉体を動かす事が出来るのだ
完全に理解の範疇を超えている

赤獅子というのはこれほどの生命力を持っているのか？
それともこの女がきわめて異常なのか？
霊体の自由を封じておかなければ魂の抜けた肉体を操り我々を暴力的に制圧しようとするだろう

魂が抜ければどんな人物であれそれはただの空の器でしかない
その事実をねじ曲げてくるなど……全く興味深い女だ





お前のまんこ気持ち良いなあ
ちんこ悦ばせるために
鍛えてるもんなあ



お陰であの女を
持って帰れたんだしな
ご褒美をあげなくちゃな

ああそうか
絶頂を封じられてるんだったか
お前みたいな女には辛かっただろう？
でも頻繁にイってたらボディガードに
ならないもんな



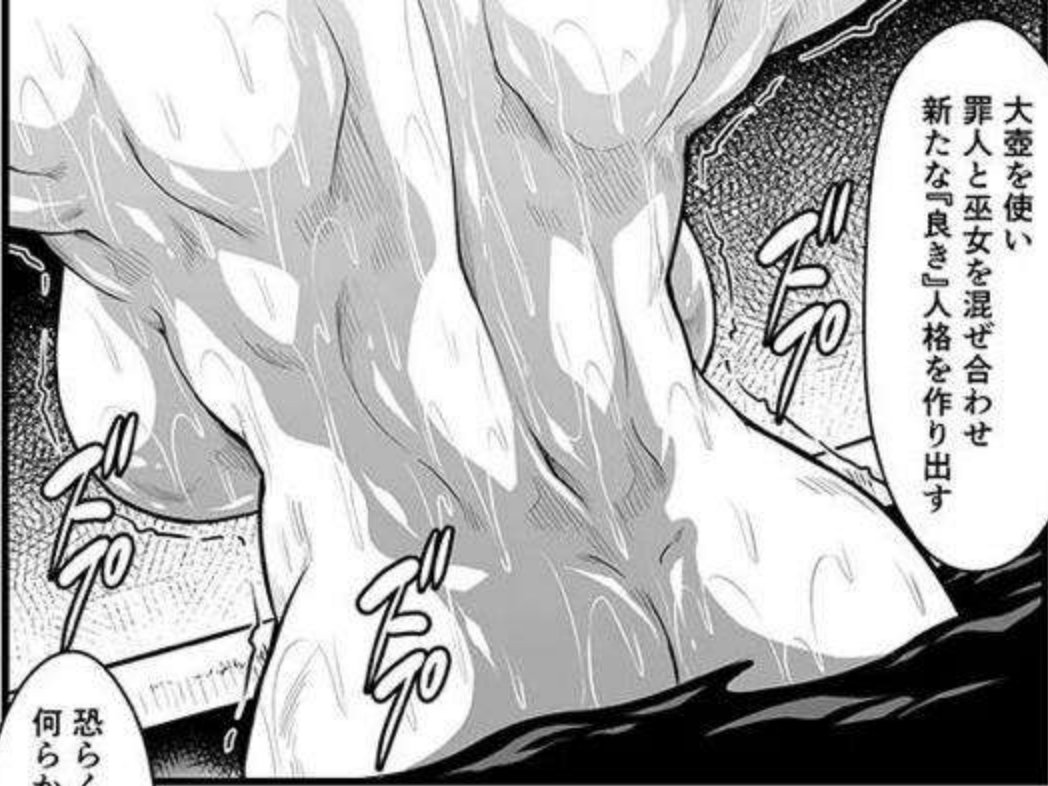
解呪するといまままでの快感が
一気に押し寄せるからよ
壊れる悦びを存分に味わえるはず
良かったなあ 幸福だなあ



ヒヒヒヒヒ
白目剥いて泡吹いても無駄だあ
お前は死ぬ事はないからなあ
無限に絶頂し続けられるぞお







大壺を使い
罪人と巫女を混ぜ合わせ
新たな『良き』人格を作り出す

恐らく核となる巫女と呼ばれる者達が
何らかの作用をきたすのだろうか



彼の地での最大の収穫は
この術を知れた事であろう

デミゴットを手に入れることは
またもや叶わなかったが
中々に興味深い呪術を得る事ができた



巫女でない者を核にして
この術を行えばどうなるのか？

感情 感覚 それらが凝縮し核の中に
流れ込み一つに融合する
負の感情が一つに凝縮すれば
恐らくただ化け物が完成するだけだろう

だが条件を変える事で
有用な結果を引き出すことが
できるのではないだろうか？



失敗作どもは快楽の中で絶命し
魂も永遠に快楽に狂い続けている
傀儡としても役に立たぬ者共だ



快楽で壊れてしまった
数多の失敗作どもを
混ぜ合わせる



そう例えば
誇りと闘争だけで
生きてきた赤獅子の戦士を
核に使用して



そんな者共の感覚を
核である赤獅子と融合させる事で
いったい何が起きるのか？

失敗作のように快楽で壊れる？
いや そうはならない
なぜならこの術は『違う何か』に
生まれ変わらせる術なのだから

赤獅子の強靱な魂は
快楽に堕ちきった魂と融合して
如何なる変化を見せるのか？

実に興味深い実験だ
失敗作どもを処分しなくて正解だったな
弟子が好むから取り置いていた物だが
こんなところで利用価値があるとは

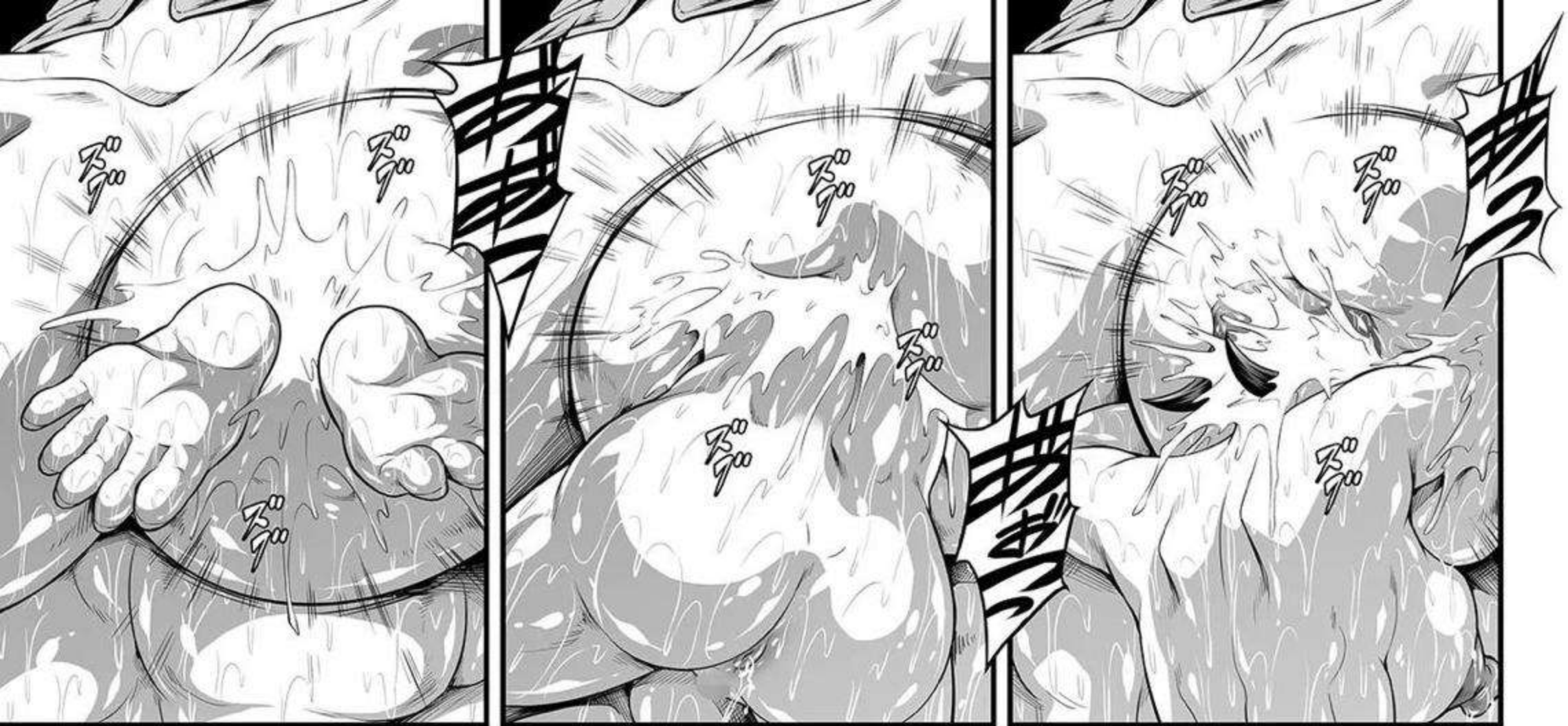


あの失敗作は
何に使ったのだったか……

ああそうか 乳首にペニスを
挿入出来るように改良したのだったな

呪術を施した直後から
許容限界ギリギリの快感にさらされ
ペニス挿入の快感に
耐えられなかったのだったな
数回の出し入れで簡単に絶命し
魂まで狂った実に使えぬ女よ





……ほう

魂だけを混ぜ合わせているのに
肉体にまで変化が現れるのか……

壺師共は肉体を混ぜ合わせて
術を行っていたようだが
悪趣味と切り捨てるのは早計だったか？
肉体と魂 双方の刺激を持って変化は
起こるのかもしれない
それ故の拷問じみた肉の扱いであったのか……？



丁度良い
こっちで少し手伝いたまえ
肉体の刺激は任せるとしよう



おや……
来ていたのか 弟子よ



手伝うと言っても
難しい事ではない
心ゆくまでこの女を
愛してやるだけだ
君は得意だろう



まずは乳首を
使いたまえ

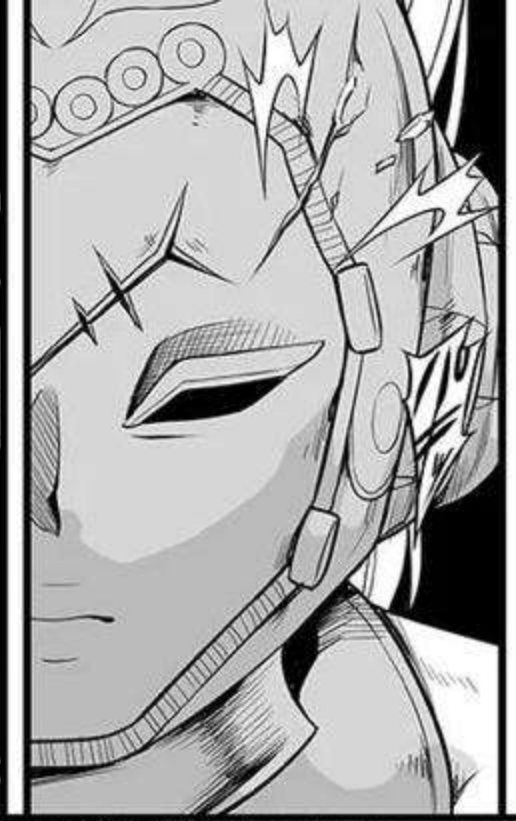
肉体に変化が現れたら
その場所を重点的に
愛してやるという



弟子は私の前でもためらいなく
性行為を行うようになった
だがそれ以降どこで拾ったのか
仮面を被るようになったのだ
アレは何のための物か……
羞恥の表れか？ それとも自身の
尊厳を守ろうとする心持ちからか？

この赤獅子の女といい
仮面で守られる物が
あるのだろう

ドゥ





この失敗作は……そうだ
コレは赤獅子の女に丁度良い

筋肉を性感帯に改造してやったのだ
大がかりではあったが非常に
出来の良い術であったな



術の完成度は高かったが
いかんせん被験者の精神力が脆弱過ぎた
下女にしては美しく鍛え上げられた肉体を
持っていたから使ってたが……
あっという間に絶命してしまった

骸になってからも随分長く
肉体は絶頂反応を見せていたが……
有用な実験とはほど遠い結果であった
やはり精神の伴わぬ肉体など役には立たぬ

筋肉量が多ければ多いほど
効果を発揮する術だ
この赤獅子の女なら
凄まじい快感を得られるだろう

快楽に耐えようと筋肉を引き締めれば
一層快感は強くなり それに耐えようと
筋肉はより強く締まり快感も強まっていく

最終的には筋肉は限界まで酷使され
そこから生み出される極限の快感で
脳は途切れぬ絶頂状態のまま
緩やかに壊れていく

だが霊体で
絶頂死することはできぬ
死に等しい快楽の中で
残りの失敗作達の快感をも
受け止めなくては
ならないが……果たして



足を異常性感帯にする改造

尻穴で性器の数十倍の快楽を得られる呪術

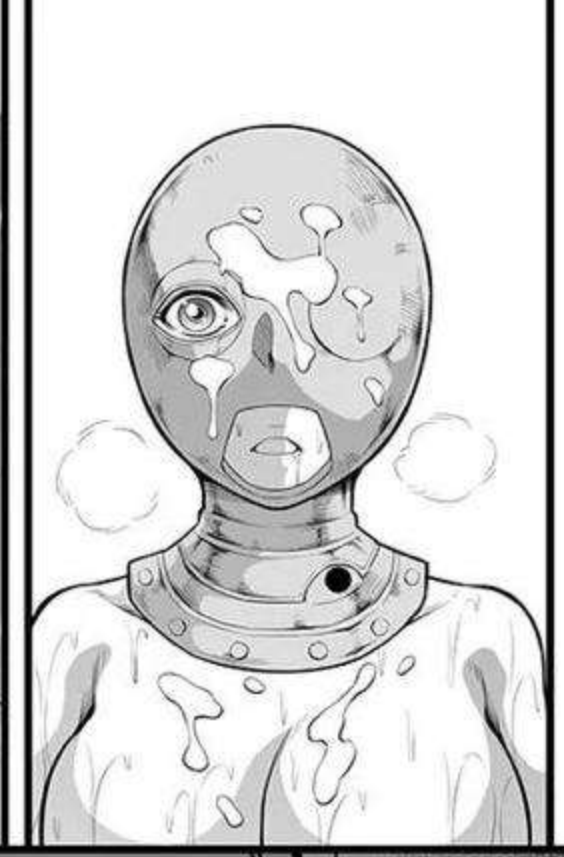
膺の感度拡張

膺へその異常性感帯化と性器化

男性器を生やし感度を拡張する術

これは本当に失敗だった……
一度も射精が止まることなく
絶命していたからな……





実験結果は成功とも失敗とも言えぬ不可思議なものだった

肉体は赤獅子の女の物である
脳は常軌を逸した絶頂を常に
感じ続けており
おおよそ思考するという行為は
不可能であろうと推察される
つまりは「廃人」だ

だが戦闘行為においては
戦神のごとき力を発揮する
快楽で廃人と化しているにも
かわらずだ

戦闘行為を命じた時以外
肉体を能動的に動かす事は無い
我々が性処理に肉体を
愛してやる時にすら自ら積極的に
体を動かさずとはしない
脳がとっくに壊れているのだ
当然だろう

戦闘においては
戦場を悉く蹂躪し屍の山を築く
この女と対峙し生き残った者は居ない

そして驚く事にこの女は
自ら屠った者共を使って
性行為に勤しむのだ
女も男も見境無く犯す

勝利に酔いしれるように
戦闘で火照った体を慰めるように

品性は無いがまるで
「ただの人間」のようではないか
とても快楽で脳が壊れた者の
行いでは無い

つまり戦闘行為でこの女の肉体を操っているのは「この女自身では無い」ということだ



引きたいこの女の中に何が宿ったのか……引き続き観察を要する





弟子は赤獅子の女のペニスに
異様な執着をしめしている
他の傀儡には目もくれずにこの女の
ペニスを貪り続けている

これは良い傾向かもしれぬ
弟子がもし本当に自身の野望を
成就することができるのであれば





傀儡に堕ちた赤獅子の女戦士

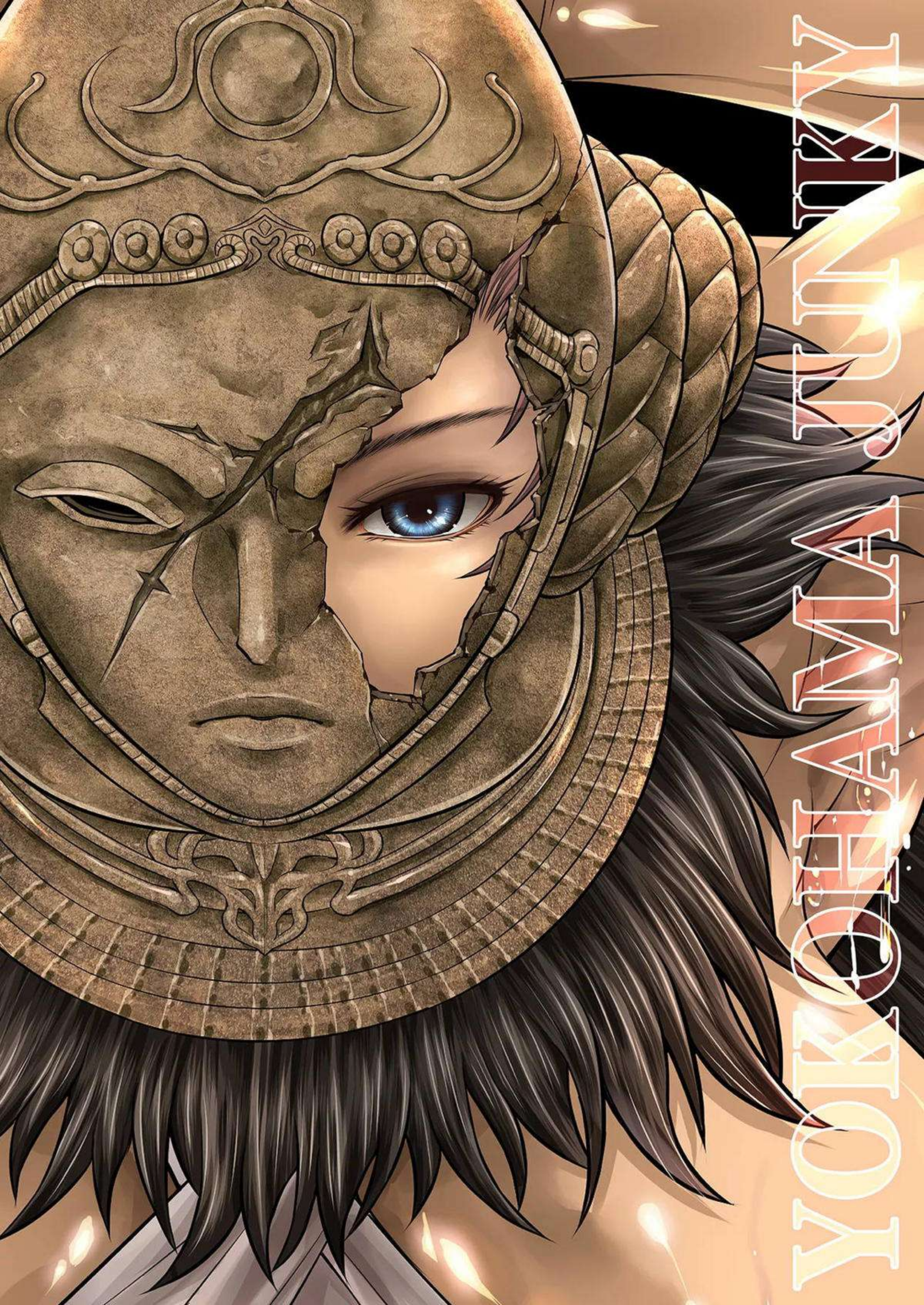
発行 YokohamaJunky

発行者 魔狩十織

web <http://yokohamajunky.com/>

email mail@yokohamajunky.com

※この物語はフィクションであり、実在の人物団体及び各種設定も一切関係ありません
尚、18歳未満の閲覧、購読は禁止です



YOKIHIAMA JUNRYU